

- JA市原市姉崎蔬菜組合(15戸)はだいこんを主力とした野菜生産組合であり、平成19年に共同洗浄選別施設を導入し経営規模の拡大を進めてきた。
- 平成29年、本産地の**更なる成長と、持続的発展性の確保**を目的とし、関係機関にてGAPに基づく生産工程管理の取組を推進。
- 組合員と関係機関が連携し、勉強会等の改善活動を進めた結果、令和2年1月に**系統出荷団体では県内初となるJGAPの団体認証**を取得。
- 組合全体としてトレーサビリティの確保が可能となり、リスクに対応できる産地体制が整った。

具体的な成果

1 団体認証の取得

- 令和元年11月にJGAP団体認証審査を受け、令和2年1月4日に**県内初となる系統出荷団体のJGAP団体認証**を取得。



図1 農場審査の様子

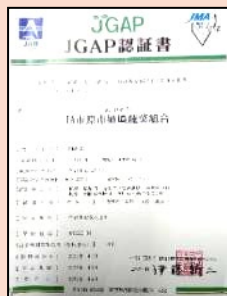


図2 認証書

2 リスクに対応できる産地体制

- 異物混入などのリスクの低い農場に。



図3 整頓された農薬庫(左)と作業場(右)

- 部会全体として、トレーサビリティの確保が可能に。

・既存の出荷伝票等を利用し、トレーサビリティの確保が可能となる仕組みが完成。

- 新型コロナウイルス感染拡大にも迅速に対応し、マニュアルを改訂。滞りなく洗浄選別施設を運営。

・リスクを把握し、対策を決めることにより、万が一の事態にも出荷を止めることなく施設を運営できる仕組みが出来上がった。

普及指導員の活動

平成29年度

- 関係機関との産地ビジョン作成。
- 組合員へ「GAPをする」意義の説明と動機付け。
→「**認証チャレンジしたい**」と要望を受ける。
- 関係機関にてGAP推進チームを結成。

平成30年度

- GAP推進チームにて出荷先や認証費用を考慮し、**JGAP団体認証を組合に提案**。
- 推進チーム立ち合いのもと、GAP項目に基づくチェックの実施。
- 共同洗浄選別施設の改善活動。

令和元年度

- 農場ごとの改善活動支援。
- 帳簿類の様式について、組合員と協議のうえ作成。
- 関係機関と協力した内部監査の実施。
- 共同洗浄選別施設の従業員に向けた教育訓練の実施。

普及指導員だからできたこと

- コーディネーター機能を発揮し、関係機関、組合員との打ち合わせを定期的で開催し進捗管理やとりまとめを行うことで、ビジョンに向けて計画的に取組を進めることができた。

- さまざまな事業を紹介、活用することで、認証に掛かる費用的負担の軽減を可能とした。

千葉県

「姉崎だいこん」産地における JGAP 団体認証取得に向けた取組 —信頼される産地であり続けるために—

活動期間：平成 29 年度～令和 2 年度

1. 取組の背景

市原市姉崎地域は、千葉県市原市の西部地区に位置し、だいこんや馬鈴薯などの露地野菜を中心とした畑作地域である。この地域のだいこん生産は昭和 57 年に発足した J A 市原市姉崎蔬菜組合が担っており、現在、15 戸の農家で、約 200ha のだいこんを作付けしている。秋冬だいこん、春だいこん共に野菜指定産地に指定され、市原市の基幹的品目となっている。

J A 市原市姉崎蔬菜組合は、平成 19 年にだいこんの共同洗浄選別施設を導入し、雇用を活用して経営規模、栽培面積の拡大を進めてきた。産地規模の拡大が進んだ平成 29 年頃より、関係機関、普及組織では、本産地の更なる成長、産地力の拡大を目指すため、食品事故や労働災害、環境汚染のリスクを低減させ、今後 10 年、20 年の単位で持続的な発展性を確保することが重要であると考えるようになった。

そこで、産地の発展のため、G A P に基づく生産工程管理の導入について組合に提案したところ、役員から、G A P の第三者認証に挑戦したいとの要望を受けた。組合として共同洗浄選別施設を利用しているため、団体での認証が最も理想的であると考え、「全組合員で取組む G A P 団体認証」を目指して、平成 29 年より活動を行った。

2. 活動内容（詳細）

(1) 関係機関との目標設定

G A P 導入を進めるにあたり、J A 市原市、市原市、農業事務所の担当者と G A P 推進チームを作り、J A 市原市姉崎蔬菜組合の現状と目標とする G A P の種類、認証までの具体的なスケジュール等を検討し、ビジョンの設定を行った。出荷先は国内であることや、認証に掛かる費用等を総合的に考え、J G A P の団体認証を目指すこととした。

(2) 組合員との合意形成

まずは、組合員全員に講習会で G A P の理念と、G A P に取り組むことの必要性を説明し、動機付けと G A P についての理解を深めた。その後、組合役員と具体的に取組むべき内容や G A P 団体認証を取得するメリット、今後の方針について協議し、J G A P 団体認証取得に向けて組むことで合意を得た。その後、組合役員が中心となり、組合員全員への説明を行い、組合の総意として J G A P 団体認証を目指すこととなった。そこで、J A 市原市担当職員が J G A P 指導員の資格を取得し、指導体制を整えた。

(3) GAPに基づく農場ごとの改善活動

団体認証を目指すためには、1人も脱落させずに全組合員が同レベルの農場管理を実践することがカギとなった。まずはJGAPの項目のチェック表を配布して農場ごとにセルフチェックを行い、現状把握と各農場の課題を明確化し、生産者への意識付けを行った。

その後、GAP推進チームで、個別指導を行い実際に組合員が行っている良い実践事例や改善すべき箇所を講習会で紹介することで、全戸に対してGAPの実践を啓発した。また、農業者に行ってほしいこととして農場管理マニュアルを作成し、行うべきことを明確化させた。帳票類については、組合員と協議しながら、記入しやすい様式を作成した。



写真1 普及員の説明を基にセルフチェックを行う様子

(4) 共同洗浄選別施設の改善活動

共同洗浄選別施設は関係機関が中心となり、活動を進めた。始めに、衛生管理については、有害微生物リスク管理基礎調査事業を活用し、施設内の微生物リスクについて検査を行い、結果を基に衛生管理マニュアルを作成した。

さらに、選別施設で働く従業員に向け、GAPに関する説明会を開催し、GAPに取り組む理由と重要性を説明し、理解してもらうことができた。

(5) 内部監査

令和元年7月にGAP推進チームと組合員で内部監査を実施し、農場、共同洗浄選別施設の取組確認と改善が必要な箇所の是正を行った。個々の農場については個別に是正箇所を返却し、改善を促した。さらに内部監査終了後に再度講習会を開催し、優良取組事例の紹介と審査までに改善すべき点を具体的に示した。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 団体認証の取得

令和元年11月にJGAP団体認証の審査に臨んだ。3日間の審査を受け、いくつかの指摘を受け、GAP推進チームと組合員で是正を行なった。その結果、令和2年1月4日に県内初となる系統出荷団体のJGAP団体認証を取得することができた。



写真2 農場審査の様子

今回の認証は外部の指導員に委託せず、JA職員がJGAP指導員の資格を取得したことで、組合と関係機関の力のみで認証までたどり着くことができた。

(2) リスクに対応できる産地体制

GAPの考え方が組合員の意識に根付いたことで、農場の整理整頓について組合員からも積極的な発案があり、異物混入などのリスクの低い農場となった。また、各農家が圃場ごとの記録を適切に管理する体制が確立され、部会全体として、トレーサビリティの確保が可能となった。

さらに、令和2年3月頃からの新型コロナウイルス感染拡大を受け、共同洗淨選別施設において、万が一、政府指定感染症の感染者が発生した際の初期対応、作業体制を検討し、速やかに衛生管理マニュアルの改訂を行ったことで、コロナ禍においても滞りなく出荷を行うことができた。

4. 農家等からの評価・コメント

(市原市だいこん生産者A氏)

改めて生産から出荷までのリスクを考え直し、意識が変わった。また、組合全員で取り組むことにより団結力が強くなった。これを機に他の産地の後追いをするのではなく、先進的な産地になりたい。

5. 普及指導員のコメント

(千葉農業事務所 改良普及課 普及指導員 梶浦真衣)

今回の取組により、普及指導員として、農業経営におけるリスクを考えるきっかけとなった。GAPはそれぞれの経営におけるリスクを常に把握し、リスク低減策を考え対策を行うという、経営にとって重要なサイクルである。この活動の成果を活かし、多くの生産者にGAPの考え方や「GAPをする」ことを普及していきたい。

6. 現状・今後の展開等

JGAP認証を継続するため、18か月以内に維持審査を受ける必要があり、令和3年4月に維持審査を受ける予定である。その後、2年に一度の更新審査がある。今後も生産工程の効率化を推進し、持続可能な信頼される産地であり続けるため、生産者自らが改善を続けることができる体制づくりを目指し支援していく。

現在、姉崎蔬菜組合では、だいこんの生産面積拡大に伴い、共同洗淨選別施設の処理能力が追い付かず、組合員からの出荷量を制限する時期が発生している。課題解決のために関係機関と連携しながら、施設の更新や増設も視野に入れた産地ビジョンを検討し、今後も継続的に「姉崎だいこん」を、より安全・安心に消費者に届けることのできる、信頼される産地となるよう支援していく。